

5. 干潟干出域カニ類等生息状況調査

本調査は、底生生物調査では確認することができない、干出域に生息するカニ等の大型甲殻類の分布状況を把握するために行った。本調査は、前述の底質調査、底生生物調査、水質調査および植物プランクトンおよび動物プランクトン調査とは別に、調査海域が干出している時間を選び実施した。

5.1 方法

5.1.1 調査日

調査日は干出浜が広く出現する大潮の時期を選び、平成18年6月27日の10～14時頃に行った。

5.1.2 調査位置

調査を行った地点を図5.1.1、表5.1.1に示した。

調査点1、9、10、13、25、補-2、補-4、補-5については、計画地点（調査前に22地点を設定）が水没していたため、近隣の干出している場所を選び、調査地点を設定した。

なお、調査点306を含む干出浜は、調査当日に干出しなかったため、近隣の干出浜に調査点補-8を設定し調査を実施した。

5.1.3 調査方法

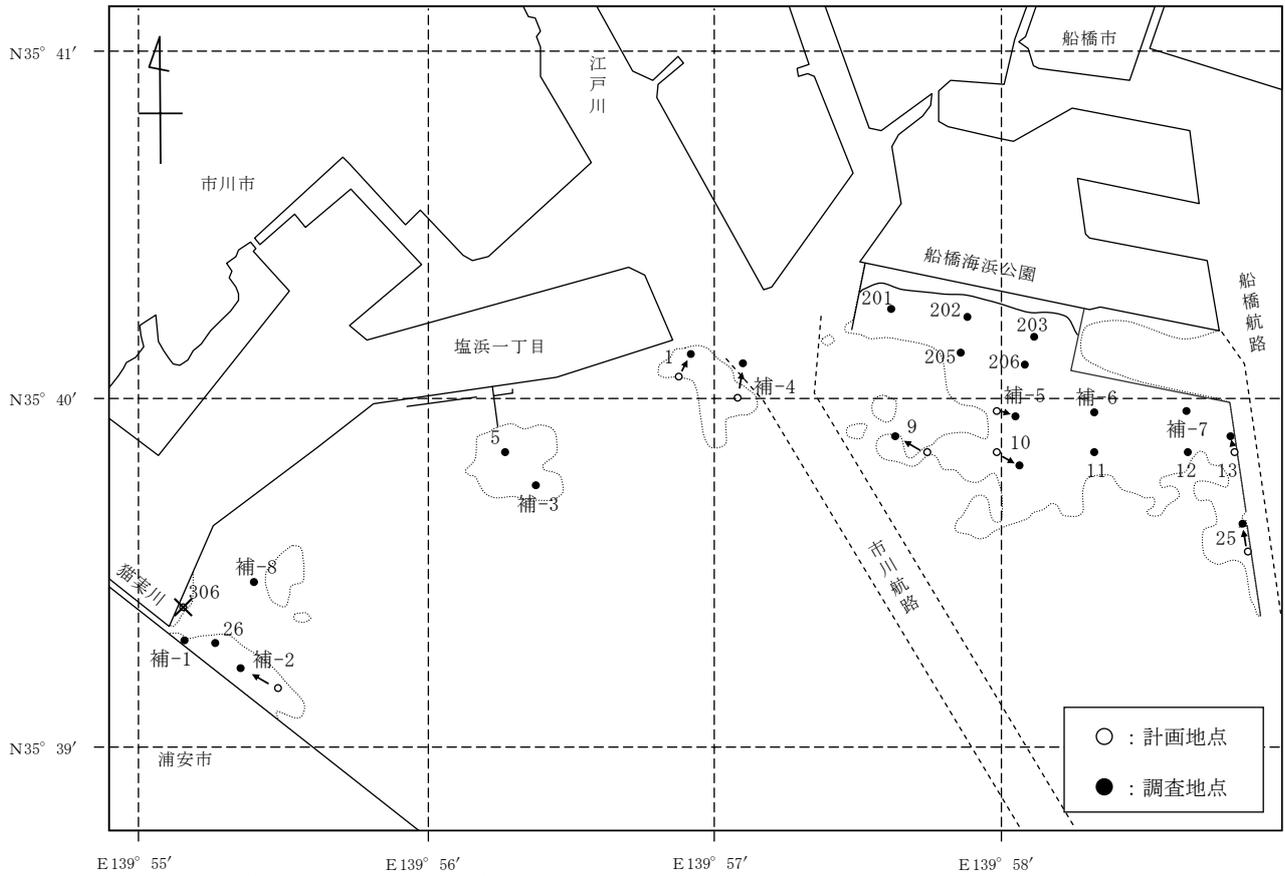
コードラート（2.5×2.5m）を調査点の地表面に設置し、底質の状況を観察した後、調査員を警戒し巣穴等に隠れたカニ類が、再度地表面に現れるのを待つために5分間静かに待機した。待機後から5分間を観察時間とし、その間に出現したカニ類について、種類と個体数を記録した。

また、同時にコードラート内のアナジャコ属、スナモグリ属の巣穴の個数を記録した。アナジャコ属、スナモグリ属は、個体を確認することが困難であるため、生息孔の形状により判断した。（生息孔には様々な大きさがあるため、一概にはいえないがスナモグリ属は噴火口型、アナジャコ属は直径1～2cmの形状を呈していることを判断材料とした。）

5.2 調査結果

調査点のうち生物種が出現した13地点について、出現種とその個体数を底質別に整理し、表5.2.1および図5.2.1に示した。

ヤマトオサガニ、アナジャコ属は、底質が泥質である猫実川河口域で主に観察された。ケフサイソガニは底質が貝殻混じりの調査点で、コメツキガニ、スナモグリ属は、比較的陸側の砂質の調査点でそれぞれ観察された。また、マメコブシガニは底質に関係なく広い範囲で観察された。各種の出現傾向は既存文献等による生息場・生態特性に順じており、当海域においても、底質に応じて生物種の棲み分けがなされていると考えられた。



注) 干出浜の範囲は海図(葛南, 2002年)による。

図 5.1.1 調査地点位置

表 5.1.1 調査地点の緯度・経度

地点ID	調査点名	緯度	経度
1	1(f-1)	N 35° 40' 07.5"	E 139° 56' 55.5"
5	5(d-2)	N 35° 39' 50.6"	E 139° 56' 16.2"
9	9(h-2)	N 35° 39' 53.3"	E 139° 57' 38.0"
10	10(i-2)	N 35° 39' 48.0"	E 139° 58' 04.0"
11	11(j-2)	N 35° 39' 50.7"	E 139° 58' 19.3"
12	12(k-2)	N 35° 39' 50.7"	E 139° 58' 40.3"
13	13(l-2)	N 35° 39' 53.6"	E 139° 58' 48.3"
25	25(l-3)	N 35° 39' 37.9"	E 139° 58' 49.0"
26	26(a-4)	N 35° 39' 18.5"	E 139° 55' 15.4"
201	I	N 35° 40' 15.6"	E 139° 57' 37.5"
202	II	N 35° 40' 13.8"	E 139° 57' 53.3"
203	III	N 35° 40' 10.9"	E 139° 58' 07.3"
205	V	N 35° 40' 08.0"	E 139° 57' 49.0"
206	VI	N 35° 40' 05.7"	E 139° 58' 05.3"
306	は	—	—
補-1	補-1	N 35° 39' 17.9"	E 139° 55' 09.3"
補-2	補-2	N 35° 39' 13.7"	E 139° 55' 20.9"
補-3	補-3	N 35° 39' 44.6"	E 139° 56' 23.0"
補-4	補-4	N 35° 40' 06.2"	E 139° 57' 06.9"
補-5	補-5	N 35° 39' 57.0"	E 139° 58' 03.0"
補-6	補-6	N 35° 39' 57.7"	E 139° 58' 19.5"
補-7	補-7	N 35° 39' 58.0"	E 139° 58' 40.3"
補-8	補-8	N 35° 39' 28.0"	E 139° 55' 23.2"

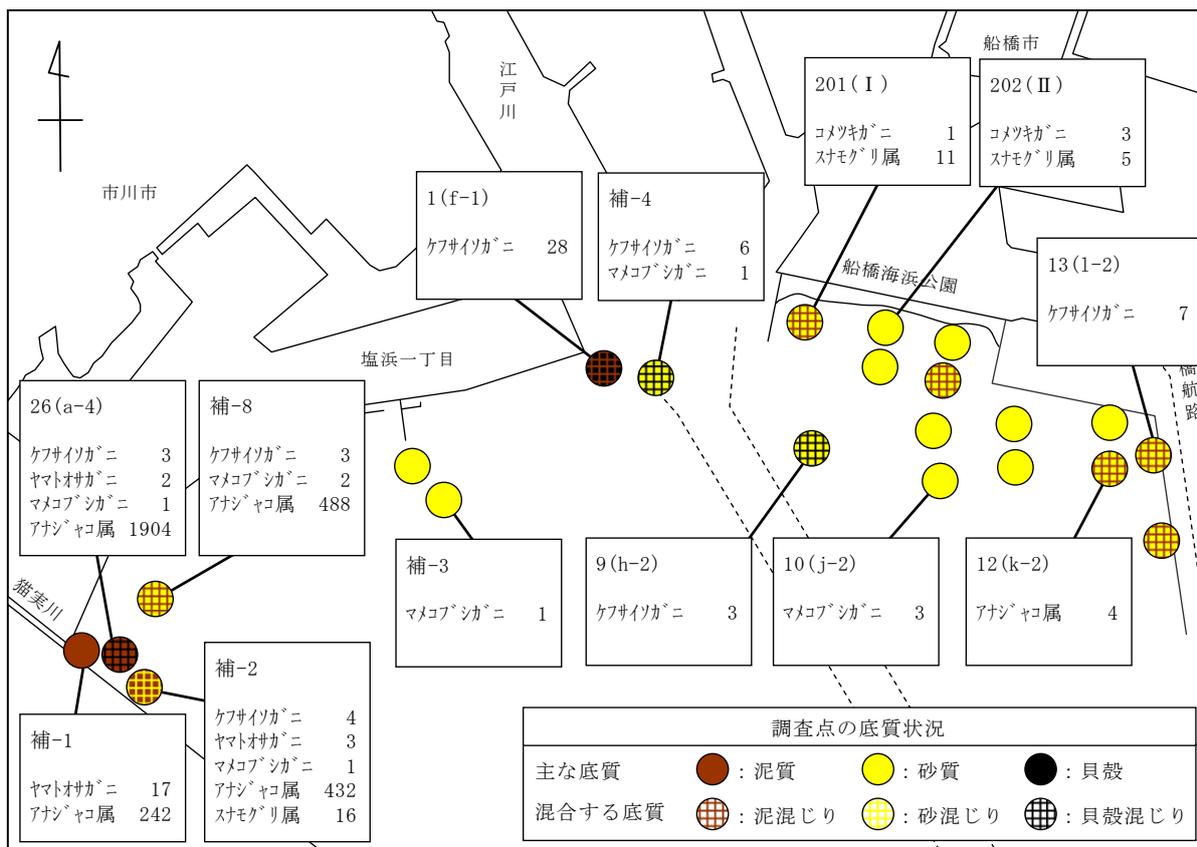
注) 1. WGS84
 2. は調査位置が計画地点と異なる地点を示す。
 3. 調査当日に306(は)は干出しなかった為、近隣の干出浜に補-8を設定した。

表 5.2.1 干出域生物の出現状況

調査日：平成18年6月27日

底質		調査点名	カニ類 (個体/コドレート)				アサギヤコ類 (穴/コドレート)		備考
主	副		マメコブシガニ	ケフサイソガニ	ヤマトオサガニ	コメツキガニ	アサギヤコ属	スナモグリ属	
細砂		10(i-2)	1						
		202(II)				3		5	
		補-3	1						
	貝殻	9(h-2)		3					
		補-4	1	6					
		12(k-2)					4		
		13(1-2)		7					アオサが多い
泥	201(I)				1		11		
	補-8	2	3			488			
	補-1			17		242		軟泥	
泥	細砂	補-2	1	4	3		432	16	
	貝殻	26(a-4)	1	3	2		1,904		
貝殻	泥	1(f-1)		28					貝殻が非常に多い

注) コドレートの大きさは2.5m×2.5m。



注) 1. 出現種の数値は、コドレート (2.5m×2.5m) 内に出現した個体数を示す。
 2. 各調査点の底質状況は、色分け及び格子掛けにより図示される。
 (例) ● …貝殻混じり泥

図 5.2.1 調査地点の底質および出現生物の状況